

えがお

伊那市小規模特認校の活動から

「小規模特認校」とは、「特色ある教育環境を活かして、一人ひとりの個性を尊重し、明るく伸び伸びとした教育」を保護者が希望された時に、一定の条件をもとに校区を越えて入学または転学が認められた学校のことです。これから、小規模特認校である「伊那西小学校」「新山小学校」「高遠北小学校」の活動を紹介します。

「森はほくろの教室だ」 伊那西小学校公開授業

伊那西小学校は、「豊かな自然の中での活動」、「少人数によるこまやかな指導」、「地域との連携」を特徴とした「伊那市小規模特認校」です。日頃から、「林間」を中心に据えた様々な活動が展開されていますが、今回、全校縦割り班での林間マラソンコース整備活動の様子を取材させていただきました。

林間活動の講師をお願いしている県林業センターの小山泰弘先生にご指導をしていただき、「明日から走れるマラソンコースにしよう!」という目標で、作業に取り組みました。運動会もあり、しばらくぶりの整備で、マラソンコースがどこにあるのか分からないくらい草や枝



はじめの会で、子どもたちに、今の森の様子や作業に向かう気持ちなどについて、お話をされた小山先生。



令和4年度
No.5
11月25日

伊那市
よりよい
教育環境
推進連絡会



全校でははじめの会の後、班ごとに分かれて、6年生がみんなに作業内容を説明しています。この後、いよいよ作業の開始です。



長時間の作業にもかかわらず、自分の分担場所の草を丁寧に刈り取る1年生



刈り取った草が一輪車から落ちないように2人で協力して運びます。



普段は授業で使っている「森の教室」は、この日、授業研究会の会場となりました。「森の教室」は、木に囲まれた素敵な教室というだけでなく、プロジェクターやスクリーンなど設置され、ICTを活用した授業が本格的にできる、すごい教室でした。

が茂る場所もありましたが、みんな時間をおぼれて作業に没頭している姿から、全校児童一人ひとりが、森をとて大切に思っていることがわかりました。

伊那西小学校では、この他にタケノコ掘り・飯盒炊爨・森のステーション・熊の学習会・地域講師と森の教室での学習・農

業酪農体験などの様々な学習が行われています。伊那西小学校は、全校児童五十八名のうち、特認校制度利用と移住の児童数は二十二名です。一人ひとりの個性を大切に自分の良さを伸ばし、みんなが仲良く、林間を通して豊かに学ぶ学校です。

新山小「秋の自然に親しむ日」

新山小学校では、「秋の自然に親しむ日」にキノコトリーを行いました。

全校児童は、自宅から地区ごとに分けられた二つの場所にそれぞれ集合して、キノコトリーをした後、学校に登校します。はじめの会をしてから、ボランティアさんの案内で、途中「あけび」を見つけたりしながら、山に入っていくました。少し進み、低学年と高学年に分かれて違う山でキノコトリーがはじまりましたが、低学年でも急な斜面をどんどん登っていく姿に驚きました。また、三年生くらいになるとキノコの種類が分かる子もいるようです。



案内していただいたボランティアの皆さん



急な斜面も、どっどんのぼる低学年の皆さん



「りこぼう」がとれました!

キノコトリーを終えて、学校に行き、四時間目は、キノコ学習の時間でした。講師の先生は、コミュニケーション

ル運営委員でもある間澤傳(つたえ)さんです。間澤さんは、キノコの種類や森での役割についてのお話をしたり、児童の皆さんがとってきたキノコの名前を紙に書いて、ひとつひとつ説明をしたりしてくださいました。間澤さんの説明の後は、児童の皆さんが活発に質問をしていました。



児童の皆さんがとったきのこを分類して、説明する間澤さん

コロナ禍でなければ、キノコ鍋を味わうところですが、各自家に持って帰りました。今年はキノコが少なかったもので、とれなかった児童はボランティアさんにわけてもらいました。

新山小学校も「小規模特認校」として、保育園・小学校・地域で行う運動会をはじめ、保育園と合同で行う野菜の栽培や収穫、トンボの楽園観察会など特色ある活動が行われています。

高遠北小「地域を学ぶ日」

高遠北小学校では、三義・長藤・藤沢の三地区に分かれて、地域の自然や歴史・文化、産業などについて学習する「地域を学ぶ日」が行われました。

今年度は、三義地区が遠照寺から竹の上まで歩きながら石仏の学習、長藤地区が小豆坂トンネルの学習、藤沢地区が太陽光発電の学習を行いました。

今回は三地区の活動のうち、太陽光発電の取材をさせていただきました。藤沢地区の児童の皆さんは、杖突峠にある守屋山登山口駐車場に集合し、はじめの会でこの学習を計画していただいた区長会長さん

公民館長さん、育成会長さん、説明をしていただく三峰川電力株式会社



計画・運営をしていた区長会長、公民館長・育成会長の皆様

の方に挨拶をして、伊那市・諏訪市・茅野市に位置する守屋山中腹にある「長野諏訪太陽光発電所」を目指して出発しました。



山の空気を感じながら
楽しく歩きました

林道を二十分ほど歩くと、太陽光パネルが見えてきました。到着してから、再生可能エネルギーや太陽光発電について、また「長野諏訪太陽光発電所」の概要についての説明を聞きました。

児童の皆さんは、数えきれないパネルに驚きながら、みんな熱心にメモをとっていました。

この学習を実施するにあたっては、計画や運営が、各地区の役員の方々によって行われているということや毎年新たな学習内容を考えて実施されていることを聞いて、大変驚くと共に、地域について学びを深めてほしいという地域の皆さんの思いを感じました。

ここまで紹介したように、「伊那市小規模特認校」では、それぞれの地域の特色を活かした様々な活動が展開されています。



最後にみんなで記念撮影をしました



37,884枚のパネルが、3,900軒分の電気を作ります



美篤公民館人権同和教育講座
「外国人差別と課題について
身近な人権から考えましよう。」

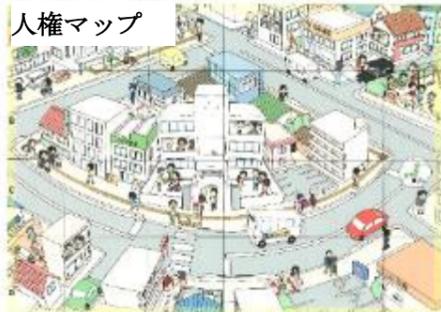
美篤公民館の人権同和教育講座が、講師に南信教育事務所生涯学習指導主事の唐澤秀司先生をお迎えして、美篤きらめき館で開かれました。

最初に、体と脳の準備体操をしてから、町にあふれる「身近な人権」について、人権マップを使って、「人」にやさしいところ・気になるところを見つけていくを通して、「人権は見ようとしな」と見えてこない。「似たようなことが近くで起こっていないか」といったことを学びました。

次に外国人の人権について考えました。私たちが陥りやすい外国人の方に対する見方や考え方、県民の五十八人に一人の割合が外国人の方であること、日本で生活している外国人の方の生活についてなどお話いただきました。

この講演会を通して、身近なところ自分たちの住んでいる地域に目を向けること、相手の立場を尊重し、違いを認め合える温かい関係を築くこと、コミュニケーションの大切さなどを学びました。

ゲーム等も挟みながら、リラックスした雰囲気の中で、楽しく人権について学ぶことができました。唐澤先生の講演は、伊那公民館、西箕輪公民館でも行われます。



西春近南小 「クラブ活動支援」、
「コミュニティスクール運営委員会」

西春近南小学校では、六つあるクラブのうち、五つのクラブで、地域の方を講師にお願いして活動しています。四月中に外部講師を依頼し、発足可能なクラブを決定して、五月末からスタートして、年間五回の予定で実施しています。この日は、三回目のクラブで児童の皆さんも様子が分かっていて、それぞれ熱中した活動の姿でした。

西春近南小学校では、この他にも、読み聞かせ、地域の方と児童が環境整備作業をする交流作業、てらこや塾、狼煙上げ、見守り活動などを行っています。



【焼製クラブ】
今まで、パソコンやポテトチップスを焼製にして、食べたそうです。この日は、火起こしをしていました。焼製を作る道具も手作りです。(右下の写真)



【プログラミング】
KOOV (クーブ) というソフトを使って、ロボット(右の写真)を動かすプログラムを作成していました。



【茶道クラブ】
美味しいお饅頭とお茶をいただきました。最終回は講師の先生のお宅の茶室でお茶をいただきました。



【木工クラブ】
ミニチュア(椅子)を制作していました。ドリルなどの道具も使って、本格的でした。



【手芸クラブ】
お二人の先生に教えていただき、ポーチを制作していました。

本年度第二回目のコミュニティスクール運営支援委員会では、これまでの活動の様子を振り返り、児童の様子や願う姿、運営組織の在り方などについて、話し合われました。

五月の「交流作業」で地域の方から、「子どもさんと話を通じて仲良くなれたのは嬉しい限りです。」という感想が寄せられたり、最終回のクラブで講師の方との別れを惜しんで、来年も講師をしてほしいと願う児童の姿があったりと、児童の皆さんとボランティアの方々の温かな関係をうかがうことができました。

参加された皆様が、子どもたちの成長を願い、その想いを共有し、さらに充実した学校の応援ができるように活発な話し合いが行われた会となりました。

